



^ 13
3370
25



門 へ 13
號 3370
25

西多平前略
とらね平まつの
とらね平まつの
とらね平まつの
とらね平まつの
とらね平まつの

四六

武江書院実録巻之拾

豫知物城の山麓に山あり

父、猶更の事、賢ハ然文のど、父

父、猶更の事、賢ハ然文のど、父

父、猶更の事、賢ハ然文のど、父

父、猶更の事、賢ハ然文のど、父

父、猶更の事、賢ハ然文のど、父

父、猶更の事、賢ハ然文のど、父

大正十年八月
本大學出版部

永代香苑和世和世
 酒め金ひふ今一夜
 甲申も 秋介も
 ちと師も今夜
 ト便私をもも
 うと一見
 り 字子
 虎の若國

尋ねられど珍しくも事のものごきあり
お物の後世に因ては殿のやちや山席
遊幸初とて久は後より常の人之
けにそはの主人のやちの孔明の
太をよのやちの韜略を伯也
トのやちの事あるやち
子にても今に依ては殿のやち
久にても今に依ては殿のやち

も遠くありて秘書もたまにうき書
を身よりのお供のあつてし物なれ
其の糸の山席の内子間を席
しつ人々はまゝ部内をけりし世及
ゆゑ古もなれなり是れ秘書なる事なり
其の役所はまゝなりし人のあつたり
同様に書はしる方へ内子子も糸なり
しつ人々はまゝなりし世及

[illegible]

一 函書 一 乃 彼 信 の 大 小 ありて
 中 へ 拙 者 方 必 ず 一 事 亦 物
 の 中 へ 必 ず 追 加 せ とい ち 知 り し
 連 々 々 々 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 の 方 へ 来 り ち ぬ の 幸 甚 甚 矣
 生 活 亦 甚 々 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

ありまのしへりしとて
 お大坂歌よもろく骨に
 年ハ午ニ回リて今
 すす之びを信わがふ有るそ
 は中々悦べ天地萬物の文なり
 法の心よりなり
 タセテはめど感も
 東水の挨拶ゆゑなるものなり

山^{やま}彦^{ひこ}先生^{せんせい} 牛^{うし}家^かの祝^{いし}ひ事

英虎の如く南方の事

元禄五年の月、子、四月、廿二日、
生れ、七十、七、年、を、満、す、
その、時、の、候、に、と、り、
め、す、り、ま、り、
の、お、と、り、

秘客をよめの田中より寄るがひき
 死中の子ふやうな夜まで山岡より
 も連哥と唄ひ和歌の歌をうへ待て
 と送り送りする所お母を例年の
 通秘客をよめはる白く一不候もの
 なりたりたれ故に常日大馬車ありあ
 の秘客もこの城を内通し後よりハ
 小酒肴よりえき上り着けしもの

[illegible]

すぐたり本ら何年や
 王妻なりてのるる
 連来るる
 豪本入り速懸
 拓名い沙統とい遠いを水力や
 中く
 角力のかかりも
 ぬ
 や先少るる
 膝近やんを定四所と
 いふ子母あもの虎やうのよき男カサ
 水力も流るる
 角力かかふもぬ
 よりりま
 角力のかかふもぬ
 角力のかかふもぬ

ちやうど一冊の如くも破れし其の所を氣に
 のう一本のきりぎりすをききしに
 名を大いなるものなりけり
 後負は始り角力争をとりたる仲の
 ちて長年よりふもあはれ多し
 いまけりこのあはれなるものなり
 ちては合仕りて挨拶するもさへ
 見たりと云ふは空しくなりけり



武道由石家実録

